

# ほやほや

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.062

平成30年4月発行



日本赤十字社 福井赤十字病院  
Japanese Red Cross Society



ご自由に  
おとりください。

## 院長就任のご挨拶

グルコースモニタリングシステム  
「FreeStyleリブレPro」はじめました!

教えてドクター Q&A (神経内科)

満足度調査結果

病棟紹介(1-5病棟)

52名の新人職員が仲間入りしました

日本赤十字社福井県支部  
創立130周年記念行事開催

もっとクロス!  
赤十字フェスティバル開催

春のレシピ

栄養課  
おすすめ!

## 春のレシピ

### <アスパラと新じゃがのスペイン風オムレツ>

春野菜が出回る季節になりました。春野菜には菜の花や春キャベツ、アスパラガス、新じゃが、筍、そら豆などがあります。今回はアスパラガスと新じゃがを使った手軽で簡単にできるオムレツを紹介します。

アスパラガスにはたんぱく質を構成するアミノ酸である、アスパラギン酸が多く含まれるのが特徴です。アスパラギン酸には疲労回復効果や新陳代謝を高める作用があるとされています。じゃがいもに多く含まれるビタミンCは、加熱しても壊れにくい特徴があります。新じゃがは皮が薄いため、皮ごとゆでたり焼いたりすることでじゃがいもの風味が生かせ、ビタミンCも効率よく摂取できます。

#### 材 料 (2人分)

|         |          |        |     |
|---------|----------|--------|-----|
| アスパラガス  | 30g      | にんにく   | 1g  |
| 新じゃが    | 50g      | 塩、コショウ | 少々  |
| 玉葱      | 30g      | 卵      | 75g |
| パプリカ    | 25g      | 粉チーズ   | 4g  |
| ベーコン    | 20g      | コンソメ   | 1g  |
| オリーブオイル | 大さじ1・1/2 |        |     |

#### 作り方

- ① アスパラガスは下の硬いところを除いて下1/3ぐらいを皮むき、乱切りにする。パプリカは1cm角に、玉葱は薄切り、ベーコンは5mm幅の拍子切りにしておく。
- ② 5mm幅のいちよう切りにしたじゃがいもを耐熱容器に入れ、ラップをして600Wの電子レンジで2分半加熱する。
- ③ 熱した小さめのフライパンにオリーブオイルを半量入れ、みじん切りにしたにんにくを加え、香りが出たらベーコンを加えて中火で炒める。
- ④ ベーコンに焼き色が付いたら、①のアスパラ、パプリカ、玉葱、②のじゃがいもを加えて、塩、コショウをして強火で炒め、火が通ったら一旦取り出す。
- ⑤ ボウルに卵、粉チーズ、コンソメを加えてよく混ぜ、④の具材を加えて全体に混ぜる。
- ⑥ ④で使ったフライパンをきれいに拭き、熱したら残りのオリーブオイルを入れ、⑤を加える。
- ⑦ 全体をかき混ぜ、卵が半熟状態になったら、弱火にして蓋かアルミホイルで2〜3分ほど蒸し焼きにする。
- ⑧ 卵の表面まで火が入ったらひっくり返す。表面に焼き色がついたら出来上がり。



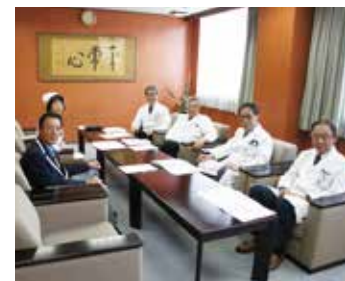
#### 栄養量 (1人分)

|       |         |
|-------|---------|
| エネルギー | 161kcal |
| たんぱく質 | 8.0g    |
| 脂質    | 11.3g   |
| 炭水化物  | 8.0g    |
| ビタミンC | 38mg    |
| 塩分    | 0.8g    |

## 今回の表紙

### 当院幹部が新体制となりました

表紙を飾るのは、4月より新体制となった当院の幹部職員6人です。今年度より就任した高木院長はじめ、職員一同、今後も地域の皆様のご期待に応えているよう努力して参ります。



### + 福井赤十字病院

#### 理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

#### 基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号  
TEL.0776-36-3630代 FAX.0776-36-4133  
E-mail webmaster@fukui-med.jrc.or.jp  
http://www.fukui-med.jrc.or.jp/  
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できたて“ほやほや”の情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員のスタッフ皆で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。



# 院長就任のご挨拶

福井赤十字病院・院長 高木 治樹



福井赤十字病院は大正14年に日本赤十字社福井支部病院として開院し、昭和18年に福井赤十字病院と改称、平成27年に創立90周年を迎えました。93年目となる今年2月、福井は37年ぶりの豪雪でスタートしました。豪雪の影響も漸く一段落したこの4月に、私は前任の野口正人先生の後任として第7代院長を拝命致しました。

療体制の充実のため、平成16年に本館を新築し、平成27年には創立90周年に併せ、先進中央棟を竣工しました。それに伴い、緩和ケア病棟を新設、外来化学療法室を移設拡張、高精度放射線治療装置「VaroDR」及び手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、地域がん診療拠点病院として総合的ながん診療体制を整えました。そして現在、来るべき超高齢化に対応するために、医療制度の大きな変革がなされようとしています。従来の病院完結型の医療から患者さんが安全に安心して地域で生活でき、

その医療が地域で完結する地域完結型の医療が求められています。昨年9月に策定した2025年に向けた病院改革プランは、地域の基幹病院として、高度急性期及び急性期医療を提供しつつ、地域医療支援病院として、かかりつけ医との医療連携を更に深化し、在宅医療を支援していくものです。今後とも職員がやりがいをもって働くことができる環境を整え、地域の皆様から信頼される病院を目指し、職員が一つになって、力を尽くしていく所存です。

院長 高木 治樹

## 退任のご挨拶

平成30年3月末日付で院長を退任しましたので、ご挨拶申し上げます。

昭和63年に京都から福井に戻って、福井赤十字病院の放射線科部長として勤務し始めてから、早や30年が過ぎました。この間14年、院長職を務めました。今、数多くの懐かしい出来事が目に浮かびます。特に、病院創立90周年事業を地域の皆様のご支援・ご協力を得て、平成27年に無事執り行えたことが印象深く思い出されます。これも偏に、地域の皆様の福井赤十字病院に対するご理解とご支援の賜物と心より感謝申し上げます。次第です。長い間、ありがとうございました。

また、平成15年から前任の田中院長の方針を受け、地域医療連携に力を注いで参りました。高度の専門医療を地域の皆様に提供し、急性期の患者さんを中心に地域医療を担う「病院つくり」に邁進して参りました。地域の皆様の健康寿命を延伸する、そして社会に貢献しようと呼び掛けながら、当院の診療活動を展開してきました。少子超高齢社会においても、全職員が十分に社会貢献できることを確信しています。

これまで、多大なるご理解とご協力をいただいた地域の皆様に対し、心より感謝と御礼を申し上げまして、退任のご挨拶と致します。



福井赤十字病院  
名誉院長  
野口正人

## 医療



内科副部長  
安富 久記

このたび、新型の持続皮下グルコースモニタリング機器『FreeStyle リブレPro』を導入したのでご紹介いたします。

どんなに治療を強化しても一向に改善がみられない患者さんをお見掛けすることがあります。いったいどんな問題が隠されているのか、あわただしい日常診療のなかではなかなかは見えてこないものです。また、糖尿病治療を行ううちに、いつのまにか低血糖を生じさせていることがあります。HbA1cNGSPを7%未満に下げるとは糖尿病管理の目標ではありますが、HbA1cの低下は、じつは行き過ぎた治療で引き起こされた低血糖のせいかもしれません。このような潜在性低血糖がある場合、突然死や心筋梗塞が増えることが報告<sup>1)</sup>されています。しかしHbA1cを見ているだけでは、治療の行き過ぎがあるのかどうか判断することが困難です。

糖尿病管理の実情を把握には、持続皮下グルコースモニタリングが大変有効です。これは、血糖経過に準じた皮下間質液中のグルコース濃度変化を数分おきに測定することで、24時間の経過を数日間にとり追跡する検査方法です。毎日食べるものが違い、活動の程度が違う日常生活のなかでは、日数がある程度多いほうが実情把握により有利です。今回当院で採用された新型の持続皮下グルコースモニタリング機器FreeStyle リブレProは、

④最大14日間と追跡期間が長いので、より確実な病状把握が可能です。

インスリン療法中の、原因不明の血糖管理不良の患者さんの病状把握にぜひお役立てください。



参考文献  
1) The action to control cardiovascular risk in diabetes study group: Effects of intensive glucose lowering in type 2 diabetes. N Engl J Med 2008; 358: 2560-2572  
参考ホームページ  
[http://myfreestyle.jp/products/freestyle-libre-pro-system.html?\\_ga=2.115259143.1014725477.1521667193-1919509047.1521667193](http://myfreestyle.jp/products/freestyle-libre-pro-system.html?_ga=2.115259143.1014725477.1521667193-1919509047.1521667193)



# 満足度調査結果

## 平成29年度患者満足度調査の結果をご報告します。

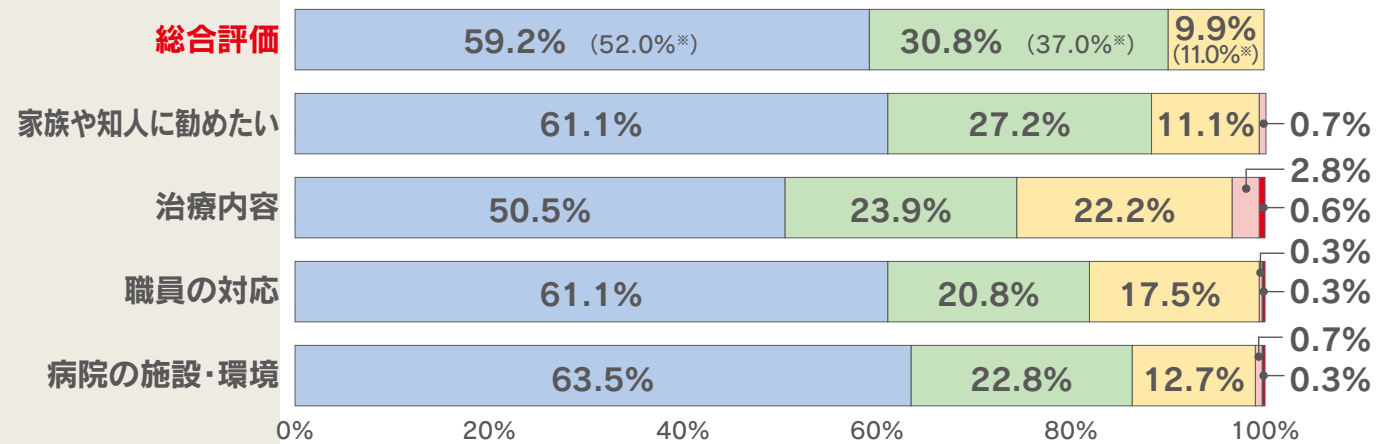
平成29年10月に、患者満足度調査を実施しました。「総合評価」においては、入院では約9割、外来では約8割の方が、概ね当院に満足されているとの結果になりました。また、「家族や知人に勧めたい」との回答もほぼ同様の割合でした。しかしながら、外来の「待ち時間」が他項目に比べてやや満足度が低いものでした。皆さまから頂いた貴重なご意見を真摯に受けとめ、対策を検討し、今後の更なる患者サービス向上につなげていきたいと考えております。

患者満足度調査へのご協力、誠にありがとうございました。

### 入院

調査期間:平成29年10月1日(日)～10月31日(火) 1ヶ月間

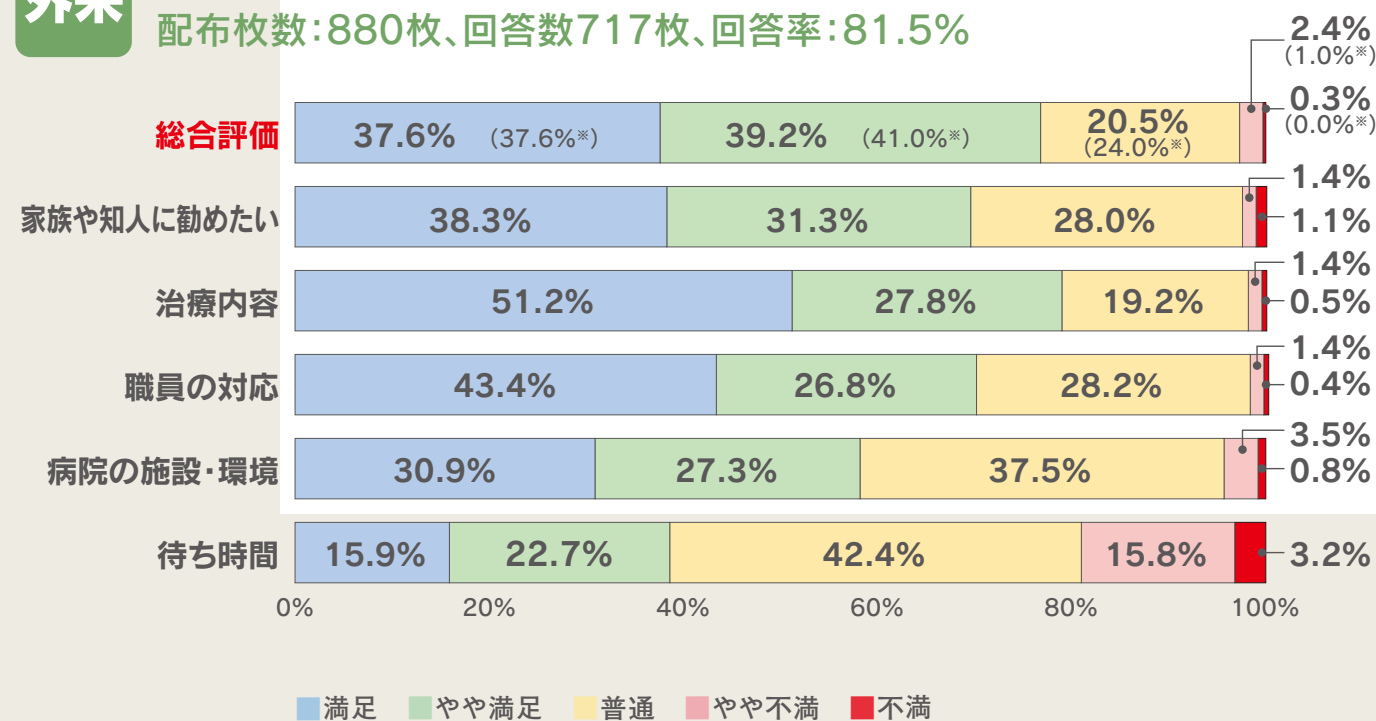
配布枚数:445枚、回答数332枚、回答率:74.6%



### 外来

調査期間:平成29年10月4日(水)～10月6日(金) 3日間

配布枚数:880枚、回答数717枚、回答率:81.5%



(※)平成28年度結果

## 教えてドクター

## Q & A

### 《神経内科》

神経内科(脳神経内科)は脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。体を動かしたり、感じたりする事や、考えたり覚えたりすることが上手にできなくなったときにこのような病気を疑います。

### 脳や脊髄、神経、筋肉に関する気になること、あれこれ

#### Q. どのような症状の人が受診しますか？

A. 症状としてはしびれやめまい、うまく力がいらない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、しゃべりにくい、ものが二重に見える、頭痛、かつてに手足や体が動いてしまう、もの忘れ、意識障害などたくさんあります。

#### Q. どのような病気を扱うことが多いですか？

A. 外来と入院では、かなり異なりますので外来から申し上げますと、頭痛、認知症が頻度としては多いです。てんかん、パーキンソン病など専門的な薬剤調整が必要な方も多く受診されています。

また、入院では、頭の血管が詰まる脳梗塞や頭の血管が破れる脳出血が多いです。脳梗塞と脳出血を合わせて脳卒中と呼びますが、脳卒中は一度入院しますとある程度の入院期間が必要になるため、入院ベッドに占める割合としては一番多いです。

てんかん、パーキンソン病などが継いで多く入院されています。てんかんは発作を繰り返し起こす病気で、発作は人によって様々です。パーキンソン病は、体の潤滑油のような役割を果たしているドパミン神経が脱落して起こる病気で、動きが遅くなったり、震えたり、小刻みな歩行になり転倒しやすくなります。



#### Q. 福井赤十字病院の神経内科の特色は何ですか？

A. 当院では、神経内科のどの領域も広く診療しております。地域の先生との繋がりを大切にして、積極的に連携を行っております。

パーキンソン病では、北陸では一番早く、経腸の持続的レボドパ補充療法を導入しました。また、深部の脳刺激療法も行っており、初期評価から進行期まで高い水準で診療できていると自負しております。てんかん、末梢神経障害、ジストニアなどの診療も電気生理の専門医がいることもあり県内をリードしております。







新人研修の様子

## 52名の新人職員が仲間入りしました

平成30年4月、総勢52名の新人職員が入社し、様々な思いのもと、赤十字職員の一員として第一歩を踏み出しました。

新人職員は、病院職員として必須である赤十字のしくみ・接遇向上・個人情報保護・医療安全推進・感染防止対策・医療倫理・患者の権利など様々な研修を3日間を受けた後、各部署に配置され、先輩達の指導のもと日々業務に励んでいます。

新人職員を含め全職員が、患者さんから信頼される医療人となり地域の医療に貢献できるように、これからも様々な研修の機会を設けて行きます。

## 病棟紹介

# 1-5病棟



1-5病棟は、脳神経外科と神経内科の病棟です。また、病棟内にSCUがあり、急性期の脳卒中患者さんの治療・看護を行っています。

### 脳神経外科

主に脳卒中や脊椎疾患、脳腫瘍、外傷・三叉神経痛、舌咽神経痛、顔面けいれんなどの治療を行っています。脳卒中では、急性期の脳血管障害に対し神経内科と脳卒中センター（SCU）を開設し、24時間体制の脳卒中治療を行っています。脳血管造影装置を備え、血管溶解療法から血栓回収療法まで常に可能です。

### 神経内科

主に脳卒中、アルツハイマー病・認知症・頭痛のほか、パーキンソン病などの神経難病にも積極的に治療を行っています。パーキンソン病に対して、近年では小腸に直接薬剤を投与するデュオドーパ治療を導入し動作が困難になる合併症を抑え、生活の質の維持・向上や介護負担の軽減を図っています。

## 多くの認定看護師が揃っています！

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、認知症看護認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師が所属しています。より専門的に質の高い看護を提供しています。また、患者さんや家族に対する看護外来も行っています。



## 医療チームで連携サポートをしています！

医師や看護師だけではなく、リハビリスタッフやメディカルソーシャルワーカーなどと連携し、安心して自宅に戻れるように、また社会復帰ができるように医療チームで患者さんのサポートを行います。分からないことがあれば何でもお聞きください。



## 日本赤十字社福井県支部 おかげ様で130年！

日本赤十字社福井県支部は明治21年に創立されて以来、平成30年に130周年を迎えますが、これを機に記念行事を開催します。開催にあたっては、赤十字事業をこれまで支えていただいた方々へ感謝の意を伝えるとともに、前回の開催から10年、この間に取り組んだ一番大きな出来事として東日本大震災があります。本行事を契機として「私たちは、忘れない。」という意思表示を積極的に行うことで、災害に苦しむ人には必ず私たちが寄り添っていくことを職員自身及び県民に再認識してもらい、そして職員自身が赤十字で働いてきたこれまでの顧み、その意義を考え、赤十字の使命・組織・事業について今一度、正しく理解することなどをねらいとしています。

記念行事は、日本赤十字社名誉副総裁である皇室妃殿下ご臨席のもと、福井県の偉人・日本赤十字社初

## もつとクロス！ 赤十字フェスティバル開催

5月11日（金）・12日（土）9時～16時に、福井赤十字病院にて『もつとクロス！ 赤十字フェスティバル』を開催します。

測定コーナーや相談コーナー、12日には市民公開講座を開催いたします。詳しくは院内ポスター、ホームページをご参照下さい。



## 作品紹介

当院では、ボランティアさん手作りの作品を院内の各所に展示しています。

